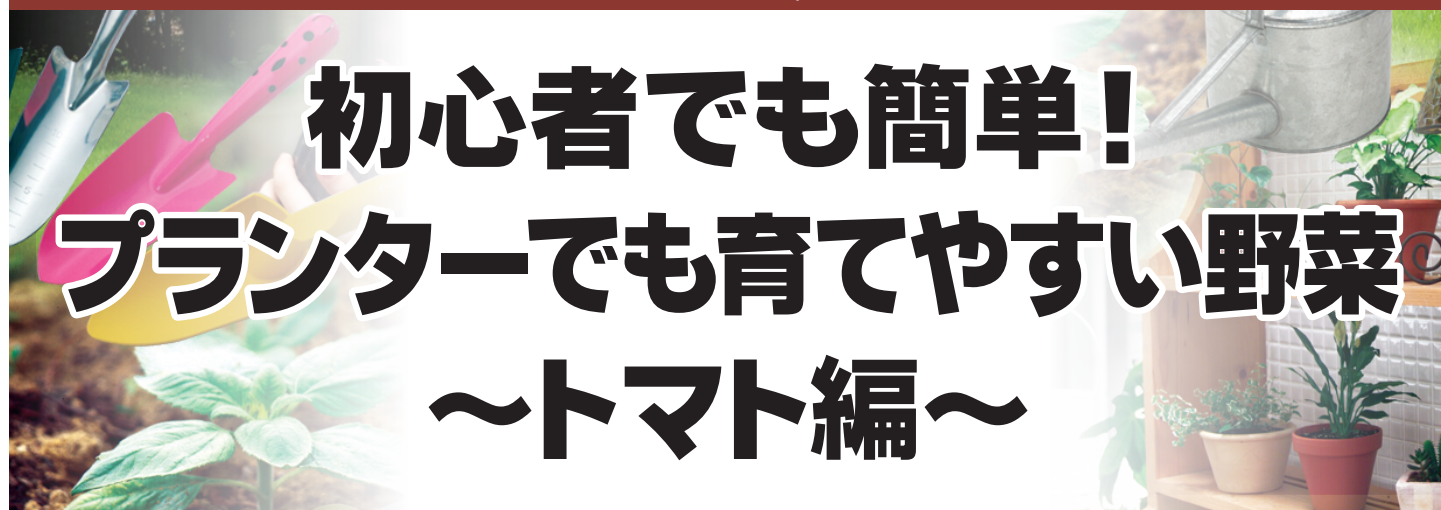




主な品種



サターン

大型福寿の改良種で、果形は豊円形、果色は明るい桃色です。草勢は強く、吸肥力は中強で耐暑性にすぐれた品種です。



桃太郎

完熟トマトの定番で、糖度が高くておいしい果実が人気です。果肉がよくしまっているため肉崩れしません。作りやすい品種です。



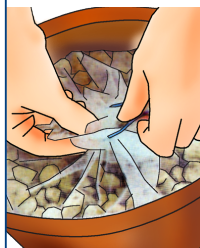
ミニトマト 千果

糖度が高く、品質最高のミニトマトです。濃赤色でツヤのある果色で、果形はきれいな球形で果ぞろいがよい品種です。

用意するもの

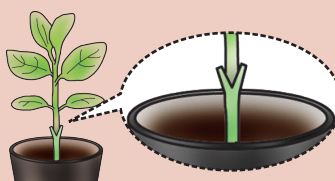
- 深さのあるプランター
「グロウコンテナ35・40型」など
- 市販の培養土
「おいしい野菜の土」など
- 市販の肥料
「マイガーデンベジフル」など
- 鉢底石 ●園芸用支柱 ●移植ゴテ
- ハサミ ●誘引用のひも(ビニタイ) など

鉢底石はネットに入れて



鉢底石は図のように台所用水切りネットに入れて輪ゴムでしばっておけば、土を再利用するときに、培養土と分けやすいので便利です。ネット入りの鉢底の石もごさいます。

●接木苗について



接木苗とは、根が強く病気に強い植物と、おいしい実がたくさんなる植物とをつなぎ合わせた苗です。接木苗は高価ですが、病害・連作障害などに強く育てやすいのでおすすめです。また収穫期間が長く、たくさん実を取ることができます。

※台木から葉が茂ってくることがありますので、こまめに摘みとるようにしてください。

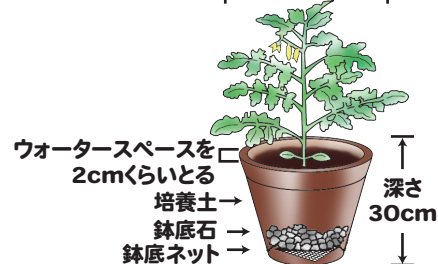
植え付け



根を崩さず、傷めないように優しくポットから取り出します。

浅めに植えます。

←直径30cm→



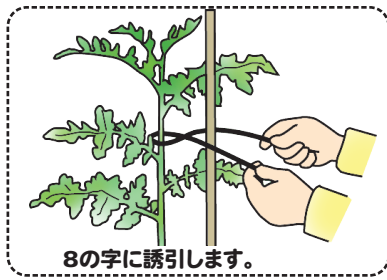
ウォータースペースを2cmくらいとる
培養土→
鉢底石→
鉢底ネット→

直径30cm、深さ30cmのコンテナの底に鉢底ネットを敷き、底が見えなくなるくらいの軽石を入れます。次いで培養土をコンテナに入れますが、この時ウォータースペースを2cmくらいとるようにします。コンテナの中央に植え穴を掘り、苗をポットから取り出して植え付けます。植付け後はたっぷり水やりしておきます。

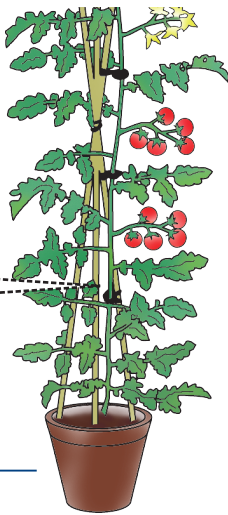
栽培から収穫まで

●支柱立て・誘引

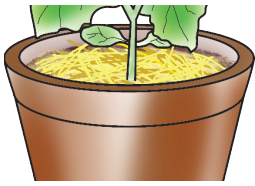
植え付け後、支柱を立てて苗を誘引します。支柱を立てたら、植え付けた苗を誘引します。



8の字に誘引します。



おすすめ!マルチング



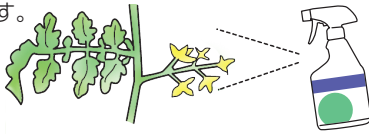
土の表面をカバーすることを『マルチング』といいます。マルチングは冬は植物を寒さから守り、夏は土の湿度を保ってくれるので、野菜の栽培に欠かせないプロセス。雑草や害虫を防ぐ効果もあります。畑ではポリエチレンフィルム「**菜園マルチ**」などを使いますが、プランター菜園では使いやすい敷きわらなど自然素材のものが見た目もかわいくおすすめです。

リエチレンフィルム「**菜園マルチ**」などを使いますが、プランター菜園では使いやすい敷きわらなど自然素材のものが見た目もかわいくおすすめです。

●ホルモン処理

第1花房の着果は、つるぼけ防止のために必ず成功させなければなりません。一般に第1花房の開花期は低温なので、「**トマトトーンスプレー**」を散布し、着果を促します。

※つるぼけ…
茎葉だけが繁り、実の付
きが悪くなること。



●元肥と追肥

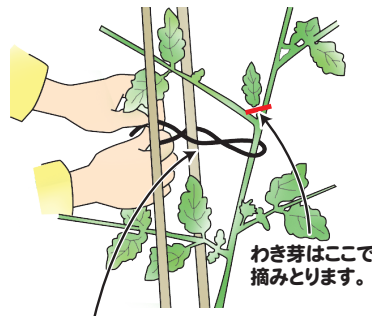
肥料が不足すると、実が小さくなったり、味がおちる原因になります。プランターの場合は、植付時(元肥)に粒状の肥料を約70g。その後、成長に合わせて追肥として、月に1回は株のまわりに1にぎり(約30g)をまきましょう。追肥には液体の肥料(1週間に1回)や、肥料の吸収力を高める活力剤を併用すると効果的です。

●カルシウム補給

大玉トマトはカルシウムが不足することで「尻腐れ」という現象(トマトの実の先端が黒くなり陥没する)が発生することがあります。それを予防するために、元肥と追肥のタイミングで「有機石灰」を併用したり、活力剤の「リキダス」を使用することで、カルシウムを根から吸収させます。ただし根からの吸収では効果が出るまでに時間がかかるので、「トマトの尻腐れ予防スプレー」を葉面や花房、実に直接散布することでも予防ができます。※尻腐れは様々な要因で発生します。また発生した実は治ることはありません。

●整枝・誘引・摘芯

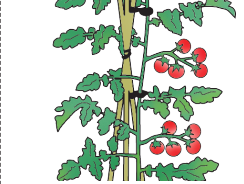
苗が活着し、葉や茎が勢いよく生長してくると、葉の付け根から盛んにわき芽が出てきます。トマトは、一般にわき芽をすべて摘みとり、主枝1本にのみ着果させる、1本仕立てで育てます。週に1回わき芽とりを行い、花房直下のわき芽を摘みとった後は誘引します。コンテナ栽培の場合、3〜5段くらいで手で摘みとります(摘芯)。わき芽をとることで果実を大きくし、日当たりと風通しをよくするので病害虫も減少します。



支柱にひもで茎を8の字状にしばりつけます。

摘芯

手で摘みとります。



手が届かないほどの高さになったら、最終花房の上に2枚の葉を残して手で摘みとります。

●病害虫

疫病が発生すると収穫皆無という事態も起こり得ますので、ワイドヒット顆粒水和剤を散布し、予防を心がけます。うどんこ病、アブラムシには「**やさお酢**」を散布します。また、ベニカXガード粒剤を植付時に土にまぜることで虫や病気の発生を抑制することができます。

※農薬の散布から2週間は収穫を控えましょう。(「やさお酢」を使用した場合は当日に収穫できます。)

●収穫

開花後50〜55日で着色してきます。コンテナ菜園では、真っ赤に熟してから順に収穫しましょう。朝のうちに収穫すると、より新鮮で甘みのある、おいしいトマトを味わうことができます。



※緑の文字は、アヤハディオで取り扱っている商品です。

※掲載商品は予告なく変更する場合がございます。[禁複製]



アプリ限定クーポンでお得にお買物!!

アヤハディオアプリ 会員募集中!



アヤカ
ポイントも
貯まる!

Point
ポイント
カード
機能

クーポン

最新チラシ

店舗検索

アヤハディオ
ネットショッピング

アプリ
ダウンロードは
こちら▶▶



Download on the
App Store



ANDROID APP ON
Google play

